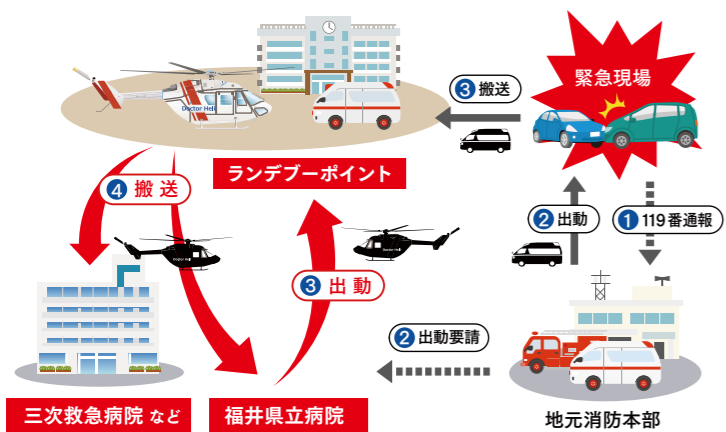


ドクターヘリ出動要請から患者搬送までの流れ



ヘリは午前8時30分から日没まで365日運航。119番通報を受けた各消防本部は救急車で現場に駆けつけると同時に、必要に応じてヘリの出動を要請する。グラウンドや公園など341カ所のランデブーポイント（離着陸場所）でヘリと合流し、患者を医療機関に運ぶ。

県子ども急患センター

夜間・休日・祝日にお子さんの病気で困ったら
ためらわずに受診を!!

夜間や休日、祝日に体調を崩した子どもを診療する「県子ども急患センター」。小児感染症流行期においても、混雑を緩和し利用者が安心して受診できるよう、待合室を広く取り明るい内装としています。電子カルテや待合表示システムを導入し、スムーズな診療につなげています。不安を感じたら、遠慮せず受診してください。

- 診療時間
月～土 19時～23時
日・祝 9時～23時
年末年始 9時～23時

- 場所
福井市城東4丁目14-30
(福井市健康管理センター2階)
TEL 0776-26-8800



〈受診の目安〉
急な発熱、けいれん、せきがひどく呼吸が苦しそう、腹痛、嘔吐、耳を痛がるなど
※頭を打った、やけど、骨折などの外科的症状の時は近くの救急病院を受診してください
急な発熱などで受診を迷う場合は、#8000子ども救急医療電話相談をご利用ください(#8000または0776-25-9555)

知事メッセージ みなさんと一緒に

安心の医療体制を
実現します

念願のドクターヘリがついに運航開始。搬送時間が短くなる、現場に着いた段階から治療を行えるなど大きな効果があります。また、治療にあたる医師の確保についても取り組みます。「いつでもどこでも」安心の医療体制づくりを進めていきます!



知事 杉本 達治

積みましました。「今回のヘリ運航は大きな一歩だが、これを適切に運用していくためには医療人材の育成も重要」と谷崎医長。少人数で重篤な患者の初期治療を行うドクターヘリは、スタッフの技術向上にも役立つことから、県内の救急医療体制のさらなる充実につながると言います。



「救急では『もう少し早ければ』と思うことも。ヘリ導入でこうした事例が1件でも少なくなれば」と谷崎医長

医療技術と医療人材が必要ですが、県内には医師の確保が難しい地域もあります。このため、県が直接医師を採用し地域の医療機関に派遣する「ドクタープール制度」を昨年度か

ら開始しました。昨年度はこの制度により3名を派遣。他にも自治医科大卒の医師や県の奨学生医師などを含め、計48人の医師を医師不足の地域へ派遣しました。今年度は61人、令和5年度には81人の派遣を目標としています。

また感染症医療の充実を図るため、県は今年4月、福井大学医学部に「感染症学講座（寄附講座）」を新設し、感染症専門医の

④地域医療課
TEL 0776-20-0345
FAX 0776-20-0642

⑤保健予防課(感染症専門医育成)
TEL 0776-20-0349
FAX 0776-20-0643

育成にも努めています。今後も、福井のくらしの安全・安心を守るため、様々な取り組みを展開していきます。



運航開始に向けた訓練の様子

県は「福井県長期ビジョン」において、急性期医療からリハビリ、在宅医療まで、症状に応じた医療サービスを県内どの地域においても安心して受けられる医療体制の整備を掲げています。そのひとつに、事故や血管系の疾病など緊急時の医療があり、対策の切り札として5月24日からドクターヘリの単独運航を開始しました。ドクターヘリは、事故や急病の連絡を受けた消防の要請で出動。医療機器や医薬品を装備したヘリコプターに救急医療の専門医と看護師が同乗し、救急現場で速やかな初期治療を行います。県立病院屋上のヘリポートから県の最西端の高浜町まで30分弱で到着することができます。

これまでは、岐阜県、滋賀県との共同運航により大野市和泉地区と嶺南に限りドクターヘリによる搬送が行われていましたが、消防や医療の現場では長年、県内全域での運航が望まれていました。ヘリに搭乗する「フライトドクター」を指揮する県立病院救命救急センターの谷崎眞輔医長は「単独運航により救われる命や後遺症が軽減される人が増える」と、大きな期待を寄せています。

現在、フライトドクターは9名いますが、実際に搭乗した経験を持つのは谷崎医長ともう1人のみ。他の医師は昨年、他県で実務研修を受け運航に備えてきました。3月からは県内全ての消防本部と共に、実際にヘリを使用して訓練を

地域差なく救命救急
×
県ドクターヘリ単独運航